

あるある研修 ⑦「太郎くん、1人で出来るかな？」

■ 主な内容

- 3歳男子の太郎くん（仮名）は、ウルトラマンやガンダムが大好き。毎朝、持ってきては嬉しそうにキャラクターの話をしてくれる。
- 太郎くんには、歳の離れた兄がいて、毎日ゲームもして遅くまで起きている様子。
- 母親は、毎日明るく挨拶をしてくれる。いつも太郎くんのジャンパーやバックの始末をしていたが、運動会も済んだ9月末頃から1人でやらせようと、玄関で「じゃあね。」と一人でやる事を促していた。
- しばらく様子を見ていたが、一向に自分の事をやろうとしないので、玄関担当の職員が声を掛けると動き出すが、一緒にやらなければやろうとしない。

■ 幼児と保育者のようす

- ある日の登園時、玄関での様子。

保育士 : おはようございます。太郎くんおはようございます！

保護者 : おはようございます。ほら太郎、おはようは？

太郎くん : … … …。

(太郎くんの目線に合わせて)

保育士 : 太郎くん、おはよう。靴を脱いで上がろうか。

太郎くん : … … …。(靴を脱いで上がる)

保護者 : さあ、ママもう行くからね。じゃあね。

(太郎くん、ポーッと立っている)

保育士 : 太郎くん、お母さん行ってきますって言うてるよ。

(太郎くん、手を振るがすぐやめ、ポーッと立っている)

保育士 : 太郎くん、ジャンパー脱いで、バックをロッカーに入れられるかな？

(バックを床に置いて、黙って座って、あくびをしている)

- 同じクラスの子も登園してきて、身の回りの始末をはじめますが、太郎くんは何もしない。10分ほど様子を見たが、何もしようとしなない。

保育士 : 太郎くん、お友だちもお部屋に行ったよ。どうするの？一緒に手伝ってほしかったの？

(うなずく)

保育士 : わかったよ。でもね。困った時には、「助けてね」とか「手伝ってね」とお話ししてくれないと分からないから教えてね。

太郎くん : うん…。てつだって

- その後、保育士に身の回りの事を手伝ってもらい自分のクラスへ入って行った。この様子は、担任にも伝えている。

ワークシート⑦（太郎くん、1人で出来るかな？）

■ 協議してみましょう

○ 太郎くんは、どうして身の回りの始末をなかなかできないのでしょうか。
(個人思考)
(グループ・全体協議)
○ どのような手立てをすると、自分でやろうとしたいと思いますか。
(個人思考)
(グループ・全体協議)

※幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の3つの柱や5領域等の教育活動の拠り所も意識するようにしましょう。

⑦「太郎くん、1人で出来るかな？」

■ この園での取組

- 太郎くんは興味を持っているものについては、饒舌に色々な話をしてくれてそのものに関して質問しても答えてくれる。
ただ、他の事については殆ど関心を示さず、一人の世界に入ってブツブツ話していることもある。
- 朝の身の回りの始末については、しばらく様子を見ていたが1人でやる姿が見られなかったので、身の回りの始末のやり方を丁寧に知らせ、1人でも出来るか見届けている。今は1つ行動する度に声をかけているが、保護者にも現状を知らせ、了解を得てから1コマずつの写真を撮り、一連の動作順に貼り付け、1つ終了したら写真を1枚ずつしまうものを取り入れてみようと考えている。
- 睡眠不足もあると思われるので、体を横にしたいときの場所も用意している。
- 全員に向かって話すことは殆ど聞いていないので、大切な話を伝えたい時は1対1で、側で話すようにしている。
- ウルトラマンやガンダムが好きなので、1つ出来た時に○シールを貼って初めは3個目にウルトラマンシールを貼れるようにする事も考慮している。
(段々、○シールの数を増やして様子を見る)

■ ワンポイント

- 太郎くんは果たして、大人が先に何でも行動したり、話したりすることで何も考えなくて良いために、1人で考えて行動できないのか、また、発達障がいをもっているのか、見極めが大切だと思う。

あるある研修 ⑧ 「翔ちゃんとまっ赤なじゅうたん」

■ 主な内容

- ・紅葉が終わった 11 月。
- ・保護者の仕事の関係で、3 歳児クラスに翔ちゃんが転入して数日が過ぎた。
- ・園長が登園してきた子どもたちに「おはよう」と声をかけるが…
- ・玄関で泣く翔ちゃん。
- ・大粒の涙をこぼしたり、床に突っ伏したり…
- ・「少しずつ様子を見て…」と保育者。
- ・朝から泣き続ける翔ちゃんを外へ連れ出そうと、保育者が声をかける。
- ・泣き疲れて呆然とした表情のまま、保育者と手をつないでしぶしぶ園庭へ。
- ・そこで翔ちゃんを夢中にさせたものは?!…

■ 幼児と保育者のようす

(11 月、転入してきた翔ちゃんがやってきた。)

園長 : 「おはよう、翔ちゃん！」

(翔ちゃんが大泣きしながら)

翔ちゃん : 「ママー、ママー!!!」

保育者 : 「お母さん、翔ちゃんの心の中は“不安”でいっぱいですからね…
様子を見てお手伝いしながら、一步一步ですね。」

(お母さんと離れた翔ちゃんは、朝から泣きっぱなしです。)

(泣き疲れた翔ちゃんは、窓から外をぼんやり眺めています。)

保育者 : 「翔ちゃん…翔ちゃんお外にお散歩行ってみない?!」

(泣きはらした目で外を見つめる翔ちゃん。しばらくすると保育者に手を伸ばし…
手をつないで園庭へ。保育者は、なんとか連れ出すことに成功しました。)

保育者 : 「何か宝ものあるかなあ? 翔ちゃんの楽しいこと探してみようか!」

(しばらく歩いていると)

翔ちゃん : 「もえ先生、ふかふかだねー」

保育者 : 「すごいね。きれいな落ち葉。」

(何かを考えたあと…)

翔ちゃん : 「先生、違うよ。真っ赤なじゅうたんだよ!」

保育者 : 「ほんとだ! 真っ赤なカエデのじゅうたんだね★」

翔ちゃん : 「(満面の笑顔で) ふっかふかー」「お家みたい」

「みんなにもみせてあげよう!」

「賢ちゃーん、みてみてー」

(賢ちゃんが、翔ちゃんの最初の友だちになりました。)

ワークシート⑧ (翔ちゃんとまっ赤なじゅうたん)

■ 協議してみましよう

○ 保育者が翔ちゃんを外に誘ったことには、どのような意図があったのでしょうか。

(個人思考)

(グループ・全体協議)

○ 登園を不安に感じている新入園児に関わる時、あなたが大切にしていることは何ですか。

(個人思考)

(グループ・全体協議)

※幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の3つの柱や5領域等の教育活動の拠り所も意識するようにしましょう。

⑧「翔ちゃんとまっ赤なじゅうたん」

■ この園での取組

- 多くの子どもにとっては、親元から離れて全く知らない集団の中に入っていくことは、人生初の経験であり、その負担は計り知れない。
- 入園から数日、翔ちゃんは何も受け入れられないという状態であったが、毎日通ううちに、少しずつ安心感を得て、ようやく外に目を向けられるようになってきていることを保育者は感じていた。
- 屋外の方が自然の素材があり、環境が多様である。
興味関心の入り口がたくさんあり、また気持ちも開放的になりやすい。
外に出て行く時の心境はどのようなものか、ということはこの保育者は考え、翔ちゃんを園庭に誘った。
- 翔ちゃんが落ち葉に興味を持ち、初めてお友だちを誘ったのを見て、この保育者はあえてその場から離れた。
子どもにとって、初めて自分の興味のわく対象が見つかり、少し不安が取り除かれた瞬間であったからだ。
保育者は、子どもが自分の世界の中に入っていけることを促すような関わり方を心がけている。
- その場から離れた保育者は、園から取ってきた簡易プールを近くに置いた。翔ちゃんと賢ちゃんから始まった色とりどりの「落ち葉のお風呂」遊びは、やがて園全体に広まったのだった。
- 環境への適応のスピードは一人一人違って当然。
保護者との分離がスムーズに進むことだけが大切ではないことを念頭に、保護者と一緒に子どもの成長を見守るよう心がけている。

■ ワンポイント

- 週明けの子どもへの関わり方や園全体の環境設定などについて、どのような工夫ができるか考えてみましょう。
- 保護者と一緒に通ったり、園バスを利用するなど登園の状況は様々である。受け渡しの際の自園の状況や子どもの様子を振り返り、どのような工夫ができるか考えてみましょう。
- 職員全体で課題（状況）把握とその改善策（工夫）を共有することで初めて、幼児教育の質の向上につながりますので、まずはできることからやってみましょう。

園内研修を実施する際の工夫・留意点

(道内幼児教育施設における実践例紹介)

■ 研修時間の確保についての工夫

【時間の短縮】

- ・資料を先に配ってそれぞれ内容理解・考察をしてくる課題を伝え、短時間で多くの意見を聞けるように工夫している。
- ・パート職員も交えてのミニ研修では、学年ごとにグループ討議をしている。

【日程・時間設定】

- ・月一回の定例職員会議の時間を利用し、就労時間内に意見交換を行っている。
- ・全職員向けの園内研修については、研修費を一律支払うことで、勤務時間外（18:00～や土日など）に研修時間や研修日を設定し行っている。
- ・長期休みを利用し、学期末や学期始めの会議日に園内研修を行っている。
- ・13:30 に設定したこともあるが、0歳児などは個々のリズムで生活しているため、ゆっくり協議できなかったため、全体の研修は時間外を支給し実施している。

【その他】

- ・日々の保育の中で担任をシャッフルし、お互いのクラスの様子を見学する。また、気づいた点を伝え合うことで、保育の質の向上に努めている。
- ・園内研修（他の保育者の保育の様子を観察・検証）を普段から行っており、その様子や感じたことを月に1回実施している会議の中で話し合う時間を設定している。

■ 保育者の研修参加・情報共有についての工夫

【書面・会議による共有】

- ・研修からの学びを報告書として管理職に提出することを徹底している。提出された報告書を管理職が確認し、その後職員全体で共有している。
- ・コロナ禍のため少人数で園内研修を実施しており、参加できなかった職員には書面で研修内容を伝えている。
- ・研修報告は、職員間で資料やワークシートを回覧したり、職員会議の中で報告するなどし、情報共有している。

【伝達講習】

- ・実践として必要な研修内容の場合（吐しゃ物処理、救急救命など）は、研修してきた職員を講師として、職員への伝達研修を実施している。

【その他】

- ・研修の学びで、保育者・保護者と共有できそうなものは研修に参加した人がみんなに伝わりやすい工夫をして掲示していた。
- ・研修に積極的に参加できる環境づくりを上司が配慮していた。(時間の都合・人員配置・参加費など)

■ 研修の実施方法等についての留意事項

【コロナ対応】

- ・コロナ禍であるという認識のもと実施しており、換気などの感染防止策を徹底した上で、少人数や短時間といったことに気を付けている。
- ・コロナ禍での研修では、園内研修であっても職員数が多い場合や時間が30分以上になる場合は広いホールを利用して行っている。

【研修の流れ】

- ・園内研修係（保育リーダー、勤務5年以上のクラスリーダー、年長の担任等）が中心となり、進行・記録をしている。
- ・また、12月に各職員から実施したい研修テーマを募り、検討した上で年間計画を立案している。
- ・園内研修係から提案のあった協議のポイントを基にグループ協議を実施するが、自由な発言ができるよう園長や主幹は協議に加わっていない。
- ・各グループの協議内容を全体で共有し、最後に主幹、園長からまとめをしている。
- ・グループ協議の発表は、4・5月は経験豊富な保育者が行うが、園外研修に参加した場合などは経験の浅い保育者の良い機会と捉え、全体に発表する機会を設けている。

【その他】

- ・基本的に理事長・園長が受講する研修や受講する職員を検討し決定している。
- ・専門性を高めるために個人で受講したい研修については個人負担としている。その代わりに報告書の提出は義務付けていない。
- ・研修実施が保育者の負担にならないよう、事前に時間を設定しお知らせしている。
- ・研修に参加できない、短時間勤務の方（パートや臨時職員等）などにも共有すべきことはしっかり伝わるよう、ネットワークづくりを心がけている。

■ その他

【研修に向かう環境づくり】

- ・午睡の時間（職員は食事・消毒・休憩・連絡ノートの記入・準備等の時間にあてています）に手作業しながら、各部屋でお子さんのかわいいお話や困ったことなどを話している。（気づいたことを話しやすい職場が大切です！）
その中でお子さん達にしてあげたいね！という様な事があつたら、それぞれに「考えておいてね」「まとめておいてね」と具体的な提案をしておいて、短い時間で話し合いができるようにしている。
- ・困った事案があつた場合もそれぞれの話を聞いてくれている主幹が提案し、必要であれば各クラスの代表の先生に午睡時に集まってもらい、話し合い・研修して各部屋に戻し、またそこで話し合い、まとめる。というように分散しているがみんなに考えてもらい実行、研修できるような仕組みにしている。
- ・いつも全員参加ができなくても、少しの時間や伝達を上手に活用することで共有出来ることがたくさんある。たくさんの方の意見を聞かせてもらうことで、園全体の研修となっている。

【研修実施における留意点】

- ・研修の学びが報告するまでで止まってしまう、実行実践にまで結びつかない。研修を実践に結び付けるためにはどのようにしたらよいか今後の課題となっている。
- ・質の高い保育を目指すために、学びの場である研修はとても大切なことだと思うが、研修時間の捻出や研修による疲労などが蓄積されると、保育の打ち合わせが不十分になっていたり、保育にかけるエネルギーが不足している様子が見られている。学びと通常保育、勤務の中におけるパワーバランスを今後どのようにしていくのかが課題である。
- ・職員間では今後の保育環境の改善や園児の具体的な支援に活かせるような研修も大切だと感じるが、コロナ禍の中で日々、保育者が今までにない「感染予防」と向き合いストレスも溜まってきていると感じているので、職員一人ひとりの心の声にしっかりと耳を傾けられるようにも工夫が必要である。

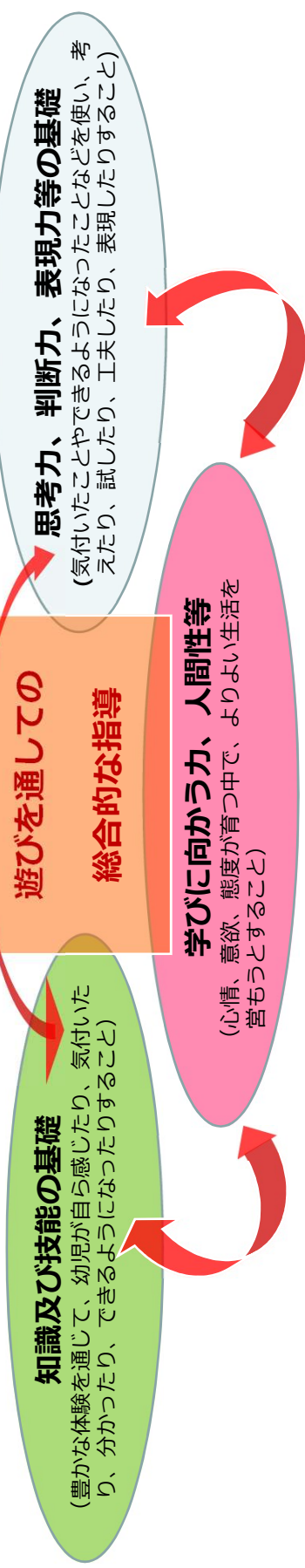
【園外研修での学びの活用】

- ・個々に必要な研修（新人・中堅・キャリアアップなど）については、保育後や午睡時間を利用し、オンデマンドにより單元ごとに時間を見つけ各自で研修時間を設けてもらっている。
- ・新人や経験の浅い保育者たちが積極的に研修（園外）に参加する時間が取れるよう、副園長・主幹などが流動的に保育に関わり、副担や加配の保育者が代替できるような準備をして環境を整えている。

幼児教育において育みたい資質・能力

■ 三つの柱

(幼児教育において育みたい資質・能力)



■ 5領域

(上記資質能力は、各領域のねらい及び内容に基づく活動全体によって育む)

- 健康
- 人間関係
- 環境
- 言葉
- 表現

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

■ 10の姿

(上記ねらい及び内容に基づく活動全体を通して資質・能力が育まれている幼児の幼児教育施設修了時の具体的な姿)

- 健康な心と体
- 自立心
- 協同性
- 道徳性・規範意識の芽生え
- 社会生活との関わり
- 思考力の芽生え
- 自然との関わり・生命尊重
- 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
- 言葉による伝え合い
- 豊かな感性と表現

幼児教育の特性から、これらは個別に取り出して身に付けさせるものではなく、遊びを通しての総合的な指導を行う中で、一体的に育んでいくことが重要

作成協力者（幼児教育相談員）

所 属	職 名	氏 名
十勝立正学園 認定こども園芽室幼稚園	園 長	太 田 久 恵
マーガレット学園 認定こども園マーガレット幼稚園	副理事長	大 森 悠 平
貞信福祉会 認定こども園函館上湯川保育園	園 長	奥 山 早 苗
枝幸幼稚園	主 任	小 室 美 華
萌愛学園 かもめ幼稚園	園 長	福 士 恵里子
留萌北部地域子ども発達支援センター つくしんぼ	療育指導員	吉 田 宣 子
学校法人あけぼの学園 認定こども園あけぼの	園 長	若 林 卓 実

※ 五十音順、敬称略。

※ 「もくじ」の教材記載順とは関係ありません。